

平成28年度 第1回京都市公共事業評価委員会 議事録

第1回委員会では、平成20～26年度に再評価を実施した事業のフォローアップ報告及び平成28年度再評価対象事業の概要説明を行った。

1 日 時 平成28年7月27日（水） 午後1時30分～午後4時10分

2 場 所 本能寺会館 「醍醐ホール」

3 出席者

(1) 委 員

戸田委員長，大山副委員長，桑原委員，徳久委員，中川委員，舞谷委員，宮澤委員

(2) 市職員

建設局長，企画管理・防災減災担当局長，建設企画部長，道路建設部長，道路建設部担当部長，土木管理部担当部長，都市計画局住宅室担当部長，上下水道局下水道担当部長，他関係職員

4 内容

委員会における質疑内容は、以下のとおり。

(1) フォローアップ対象事業の報告

・街路事業「H24-1 伏見向日町線」

「H24-2 中山石見線」

「H24-3 御陵六地藏線（第三工区）」

委 員：「中山石見線」について、墓地の用地買収に時間を要しているとのことだが、今後の買収見込みはどうか。

京都市：墓地について、3つの寺院の共同墓地になっているため、意見を取りまとめる必要があり、平成26年度に管理委員会を設立した。その後、代表の交代や規約の改正などを行い、平成27年度から用地交渉を精力的に進めている。

委 員：予算や技術的な問題ならクリアする方法はあるが、用地買収だけは技術的な問題とは違い難しい。ネックとなる用地買収をクリアすれば事業が進捗することから今後も進めて行って欲しい。

委 員：「伏見向日町線」と大原野ICを結ぶ大山崎大枝線について、京都市か京都府かどちらが事業を行うのか。

京都市：「伏見向日町線」も含め、京都の南側の環状道路ということで京都市が都市計画決定を行っており、京都市が事業を行う。

委 員：伏見向日町線を開通させたのち、西側の事業を続けて行うのか。

京都市：将来的には西側の事業も続けて行く考えである。ただ、環状道路の一部というより、まずは伏見向日町線と洛西ニュータウンをつなぐ地域の道路

として中山岩見線の整備を進めている。

委員：「御陵六地藏線（第三工区）」について、道路が狭く通学路にもなっており、このような箇所は出来るだけ事業を進めたほうが良いと個人的には考える。しかし、現状からまだ4、5年はかかりそうだが、今後の事業進捗の見込みを教えて欲しい。

京都市：事業延長約600mの内、南側の500mの用地買収が完了しており、早期に事業効果を発現するという意味では、工事に着手する必要があるが、工事に着手すると途中で休止することが難しく、現在は用地買収を進めている。ただ、今後は工事着手も検討していきたいと考えている。

・道路事業 「H26-1 一般国道162号（川東拡幅）」

「H26-2 宮前橋改築」

「H23-4 城南宮道」

委員：「一般国道162号（川東拡幅）」について、再評価時の進捗率（45.1%）と比べて平成28年度3月時点で進捗率（44.9%）が下がっているがどうしてか。

京都市：全体事業費の一部見直しを行い、調査費が約2千数百万円増加したため、分母が増加したことが要因である。

委員：「一般国道162号（川東拡幅）」における事業計画の変更理由に、各種設計基準の改定により道路詳細設計の修正が必要とあるが、各種設定基準が改定された理由と、この改定が京都市の他事業にも何らかの影響を与えるものなのかについて教えて欲しい。

京都市：設計基準の改定について、橋梁に関する基準と法面等に関する基準が改定された。このため、設計が完了している事業についても全国的に設計の修正が必要となった。本市の事業についても、影響がある事業は、随時改正された基準に合わせている。

委員：設計を修正している理由について、「各種設定基準の改定に伴う」と表現するだけでなく、市民の安全を守るため、より良い基準に沿った修正を行っているというアピールとした方がよいと思う。

委員：「宮前橋改築」について、引堤事業は国の事業であり、国の事業決定に従い橋を伸ばすことになったと思うが、国からの補助金は十分確保できているのか。また、京都市の負担を少しでも少なくするように考えているのか。

京都市：国から55%の補助金を受けて進めている。

・河川事業 「H26-3 旧安祥寺川」

「H26-4 新川」

「H24-5 西高瀬川（有栖川工区）」

委員：「西高瀬川（有栖川工区）」は地元である。平成25年度の洪水で浸水した地域があったが、早急に対応いただき、今は安心して住むことができている。他の地域についても、事業を進めていただきたい。

委員：「旧安祥寺川」について、専門家ではないので良くわからないが、シールドマシンを安く他の自治体から借りるなど、コストを抑える努力をどれくらいしているのか。

京都市：シールドマシンの口径が必要断面から決まることなどから、シールドマシン自体を他自治体と貸し借りすることは難しい。内部の機械等については、分解して再利用する場合もあるが、工事毎にマシンを製作することが一般的であり、今回も同様である。

委員：今説明を受けた河川3事業については洪水対策だと思うが、このような小さな河川は、下水道と密接に関係している。このため、下水道事業と河川事業とを連携させた形で、流域対象地域をいかに安全な状態にするかが大切である。河川事業としての話は良くわかったが、もう少し河川と下水を連携させた形でこれから事業を進めていくと良い。今後、下水道と河川の連携をより一層進め、優先度も含めて検討していただきたい。

・住宅地区改良事業「H25-7 崇仁北部第三地区」

「H25-8 崇仁北部第四地区」

・住宅市街地総合整備事業「H24-9 東九条地区」

<質疑応答なし>

・下水道事業「H20-13 下水高度処理施設整備事業 伏見処理区」

「H20-15 浸水対策事業 新川排水区」

「H20-17 合流式下水道改善対策事業 東山地域」

「H20-18 合流式下水道改善対策事業 伏見大手筋地域」

委員：「下水道改善対策事業」について、合流式下水道における降雨時の汚水問題の対処と合わせて、浸水対策も行っているのか。

京都市：東山地域と伏見地域において、この整備に合わせ、10年に一度の確率で発生する大雨に対する整備を行っている。

委員：上下水道は公共サービスの中でも特に重要であり、計画的に行っていただきたい。財政事情により整備が遅れることはあると思うが、上下水道の場合、他の公共事業とは異なり、料金収入がある。料金収入を整備事業にどのように活用しているのか教えて欲しい。

京都市：基本的には、料金収入による独立採算の枠で整備や維持管理を進めているが、耐用年数が過ぎた施設の改築更新や浸水対策などについては、国からの交付金と建設企業債で事業を進めている。なお、平成25年度に一部料金改定を行っているが、下水道事業については値上げを行っていない。

委員：「下水道改善対策事業」について，完成年度が平成35年と義務付けられており，東山地域合流式の方は98.4%で大丈夫そうだが，伏見大手筋地域合流式の方は進捗率が約半分の50.6%であり，あと7年だが大丈夫か。

京都市：今の計画のタイムスケジュールの中では，最終完成年度を平成35年度として予算配分を含めて計画的に進めており，予定通り完成すると考えている。

委員：進捗率が基本的に事業費ベースとなっているが，進捗率は単に予算消化ではなく，事業がどれくらい進んでいるのか市民が見て分かりやすい形にした方が良いのではないか。

京都市：進捗率が必ずしも事業費と比例するとは考えていないが，事業評価では事業費ベースで報告している。実際の事業を行うにあたり，面積等の進捗についても確認を行っている。

事業の種類によっては，事業進捗が見えにくい部分があり，市民が分かりやすいような形にすることは中々難しいが，事業によっては工夫できる部分があると思うので，今後研究していきたい。

(2) 再評価対象事業の概要説明

・街路事業「Ⅰ・Ⅱ・25 鴨川東岸線（第二工区）」

委員：8月2日に現地視察する事業か。

京都市：現地視察する事業である。

委員：23名の方が所有していた共有通路の大きさを教えて欲しい。

京都市：約20㎡である。

・道路事業「一般国道162号（栗尾バイパス）」

委員：8月2日に現地視察する事業か。

京都市：現地視察する事業である。

・道路事業「京都広河原美山線（二ノ瀬バイパス）」

委員：8月2日に現地視察する事業か。

京都市：時間的な問題から現地視察を行わない事業である。

委員：この事業は，旧京北町と京都市が合併したことに関係しているのか。

京都市：合併の建設計画の中でも重要路線と位置づけられている。

・河川事業「七瀬川」

委員：8月2日に現地視察する事業か。

京都市：現地視察する事業である。

委員：用地買収は，決着がついたのか。

京都市：昨年度契約を交わし、現在移転していただいている。

・住宅地区改良事業「三条鴨東地区」

委員：8月2日に現地視察する事業か。

京都市：現地視察する事業である。

